

知恵伊豆と称された松平伊豆守信綱により開削された野火止用水は、黒目川と柳瀬川にはさまれた高燥な野火止台地の正に命の水であった。

その野火止用水の全工程を二日間、10時間で踏破した。勿論自転車である。以下幾つかの所見等を述べたい。

(1) 野火止用水の概要

玉川上水完成の功により、三分の分水を許された信綱は、家臣に命じて、玉川上水（現在の玉川上水小平監視所）から掘り起こし、野火止台地を経て新河岸川に至る全長約24kmに及ぶ用水路を承応4（1655）年に完成させた。要した費用は三千両、所要日数は40日（工事季節は冬）と云われる。飲料のみならず田用水としても使用された。

幹線水路は、本流を含めて4流あり、支流は「菅沢・北野堀」「平林寺堀」「陣屋堀」であり、末端は樹枝状に分水している。用水敷きは約4間、水路敷は約2間である。

(2) 清流復活への都州市の取組の結実



用水の汚染、旱魃による用水への分水中止等があったものの、意義ある野火止用水を復活させるべく、用水路の浚渫、氾濫防止対策を講じ、昭和62年、用水に清流復活する。鯉が泳ぎ、カモが遊弋し、小魚も結構居る。清流復活の証である。“魚を捕るな”の看板もある。ホタルも生育しているようだ。

(3) 野火止用水が走るそれぞれの市域等によって、若干の取り組みの差異があるようだが・・・

用水整備のポリシーが地域によって異なるのも一興か？





(4) 玉川上水からの取水口及び野火止公園以降～新河岸川までの整備を小平監視所付近から野火止用水は分岐して居る筈だが、暗渠になっている。



今では取水口は判らず想像するのみ、流れが確認できたのは大分過ぎてからである。また、野火止公園以降は、用水跡地が、遊歩道として整備されているが、往時を偲ぶべくもない。



(5) 整備に感謝

遊歩道が整備されているので、三々五々連れだって散策を楽しむ人が結構多い。中年のおばさんと年寄りだ。所々、業者が用水路の草刈り等の作業等を行っている。このような地道な整備なくして快適な遊歩道は有り得ない。休憩所やベンチも助かる。

(6) 遺構を偲ぶ

野火止用水は志木域に入ってから、3本の支流に分かれる。然し、現在ではその流れは見られない。慶応志木高校の敷地内で明確にその跡を偲ぶことが出来る。他は、排水路等に僅かにその名残を留めているのみだ。

志木市の市場坂には『いろは樋』の大柵があり、新河岸川の対岸宗岡村へ野火止用水を引くために用いられた。



現在の志木大通りには用水が流れていたようだ。案内看板にあった写真を示す。



(7) エピソード

各所の説明文は似たり寄ったりだが、時にはなるほどと思わせるものあり。
完成後、水は大地に吸い込まれ流れなかったため、施工責任者はインチキと謗られたが、
信綱は信頼して待ち、3年目の台風時に水が流れ込んだと云う。

また、地形に応じた工法を採用したとも云われる。素掘りあり、築堤あり等々
当時の土木工事能力も大したものだ。基本的には標高差を利用した自然流下方式だが、
その方法によって、6里に渡って水を引いたのだから、凄い。



陣屋堀の築堤跡



- (8) 四季折々にその景色を楽しむべし
桜並木あり、モミジあり、アジサイも間もなくだ。